大阪湾里海づくりシンポジウム～藻場リンク構想実現に向けて～　開催趣旨について

**「大阪湾」**のとくに神戸～大阪～泉北に至る湾奥部は自然海浜が極度に失われたエリアで、この困難な海域も含めて「藻場のリンクで繋ぐ」という挑戦的な構想を掲げて、取組みを開始している。そもそもこのような海域に海藻が繁茂しているのか、藻場創出が可能なのか、という誰もが考える最初の問いについては、万博開催までの数年間にわたるポテンシャル調査と技術実証で、技術的な対応可能性は見えてきた。同時に、今後さらに拠点藻場を創出し、持続的に育てていく上での困難さも浮き彫りになっている。

今回は、大阪湾及びその他の地域で、様々な困難さに対して熱意とアイデアをもって取り組んでこられた方々のご経験をもとに、以下のキーワードを中心に**「都市の里海」**ならではの困難さと同時に面白さや可能性についてアイデアを交換し、今後の取組みに繋がるヒントを共有する。

**■「都市の里海」の難しさと可能性**

都市の海域は立入が制限され、親水空間にも乏しい一方で、様々な生物生息環境が存在し、水質の改善も進み、栄養塩類は生態系の基礎生産に寄与するという面で注目もされつつある。近隣には多様な都市活動、人や資源の流れもある。自然が極度に失われていると思われている地域での稀少性、意外性も、人の印象に残りやすい。都市ならではの難しさをも逆手に取った新しい「都市の里海」の可能性について、アイデアを共有したい。

**■「都市の里海」の担い手とは**

里海は人の手の継続的な働きかけで成立する。漁業者など一次産業従事者が少ない都市域で、働きかけの主体として、里海の「担い手」となり得る人、企業、団体、地域など、どのような可能性があるか。藻場・里海づくりに直接かかわる場合以外に、間接的にかかわりたい、応援したいという人と、取組みを支えるネットワーク、（クレジットのような）価値の循環を構築できる可能性もあるか、アイデアを共有したい。

**■「大阪」ならではの強みとは**

「住吉津・難波津」開港以来２千年近く、大阪は海とのつながりの中で人の営みが築かれてきた。海の恵みに支えられた食文化、「おもろいこと」を突き詰める文化は、多彩な芸能やインバウンドを呼び込む原動力にもなっている。大阪の産業は商業も含めてすそ野が広く、臨海部を中心に様々な産業拠点が立地する。このような「大阪の強み」を、新たな「都市の里海」のあり方に繋げる可能性について、アイデアを共有したい。大阪以外の地域の方からも、「外から見るとこういう面白さが大阪にはある」という目線でぜひコメントをいただきたい。